

令和8年度 JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道
「列車内鉄道絵画展」審査会講評

○応募作品全体について

審査会場に所狭しと並べられた作品を1点1点見せていただきました。いつも感心するのは、どの作品にも電車に対する“愛情”が伝わってくるという点です。全ての作品が心を込めて描かれているという点で素晴らしいと思いました。

昨年までは技術にとらわれている作品が目立ち、本来あるべき「その学年らしい表現」が影をひそめてきていることに懸念し、昨年の講評にはこのことに少し触れました。そのことが伝わったのかどうか、今年はその学年らしい表現がたくさん増えてきたことは特筆すべきことで良い傾向だと感じました。

審査においては票が分かれることが多く、甲乙つけがたい素晴らしい作品に審査員は苦慮しました。

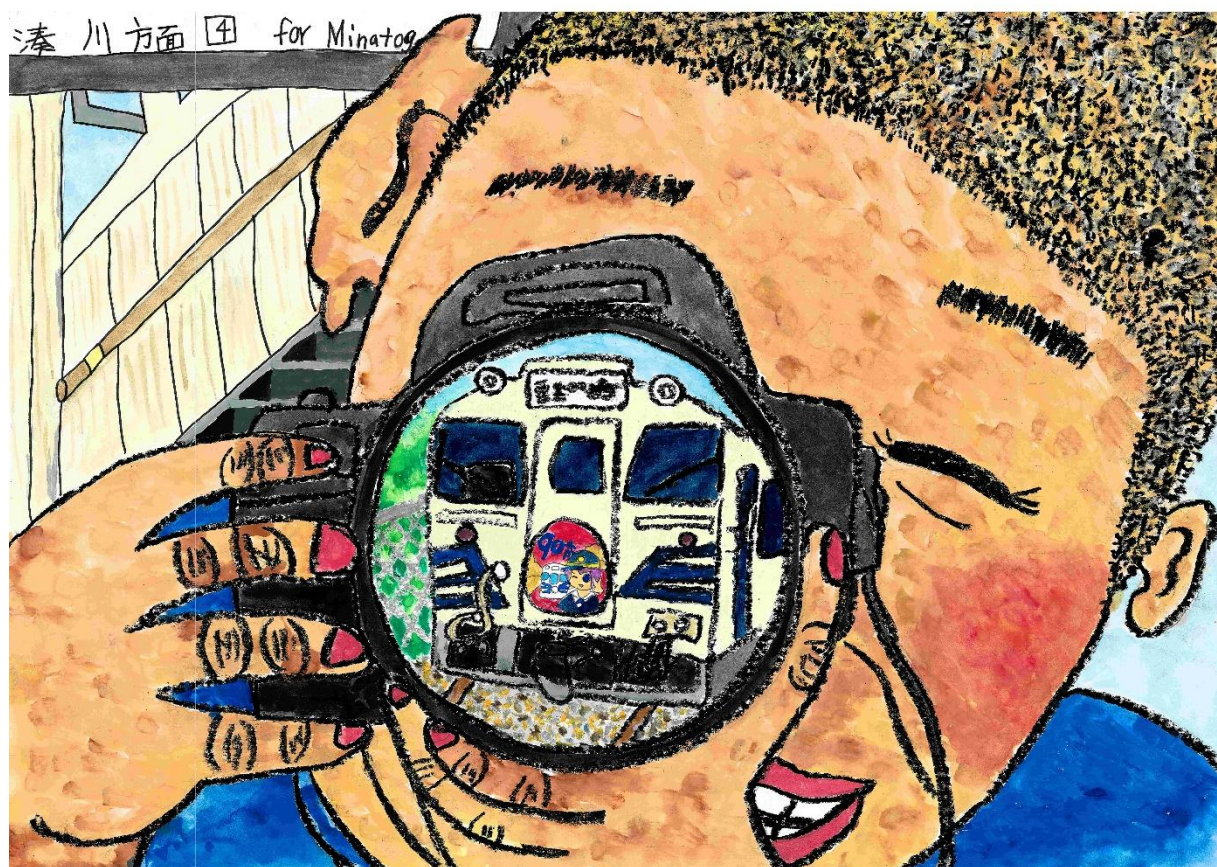
今回、選に漏れた作品も、入賞作品に負けないような魅力的な絵がたくさんあったことを付け加えておきたいと思います。

○大賞作品について

構えたカメラのレンズに大好きな電車が映りこんでいるという、これまでになかった視点で描かれているのがよかったです。

画面には、電車を写している作者のみを描いているのですが、そのシンプルな表現がかえって大胆さと迫力を生みだしました。人物の肌の色や電車など、色彩も美しくさわやかな作品となりました。

大 賞



「キハ40 535がやって来た」

たかとり まもる
鷹取 遵

(加西市立泉小学校 4年)